

◆ 今週のコメント

- ・ **オウム病**の報告が1例あり、本年初めての報告となります。患者は、60歳代、女性で、発熱、肺炎の症状を呈しており、推定感染経路はインコです。京都市では、平成11年4月以降、平成11年に2例、平成19年に1例の報告があり、本例は4例目となります。動物園や鳥類飼育施設で集団感染する場合がありますが、本例は散発事例です。
- ・ **ヘルパンギーナ**の定点当たり報告数は、4.78(191例)と、先週から増加し、過去5年平均値の2倍以上となっています。例年7月中旬～下旬にピークを迎えるため、今後の動向にご注意ください。年齢階級別では、2歳が35例(18.3%)と最も多く、1歳～4歳で67.5%を占めています。
- ・ **咽頭結膜熱**の定点当たり報告数は、0.85(34例)と、先週から増加し、本年で最も多くなっています。年齢階級別では、4歳が10例(29.4%)と最も多く、1歳～5歳で88.2%を占めています。
- ・ **伝染性紅斑**の定点当たり報告数は、0.75(30例)で、昨年8月(平成22年第33週)以降、過去5年平均値を上回る状態で推移しています。

◆ 今週のトピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、12.65(506例)で、本市において昭和57年に感染症発生動向調査が開始されて以降、最も多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 6例(肺結核 3例, 肺外結核 1例, 潜在性結核感染者 2例), (喀痰塗抹陽性 なし)
【1月以降の累積報告数 270例(肺結核 130例, 肺外結核 48例, 潜在性結核感染者 92例), (喀痰塗抹陽性 61例)】
- ・ 四類: オウム病 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例(第27週追加)【1月以降の累積報告数 12例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点67, 小児科定点40, 眼科定点10, 基幹定点1)

| 定点 | 感染症名 | 定点当たり報告数 | 報告数 |
|-----------------|-----------|----------|-----|
| インフルエンザ* | インフルエンザ | 0.01 | 1 |
| 小児科 (降順5位まで) | ① 手足口病 | 12.68 | 507 |
| | ② ヘルパンギーナ | 4.78 | 191 |
| | ③ 感染性胃腸炎 | 2.53 | 101 |
| | ④ 咽頭結膜熱 | 0.85 | 34 |
| | ⑤ 水痘 | 0.83 | 33 |
| 眼科 | 流行性角結膜炎 | 0.90 | 9 |

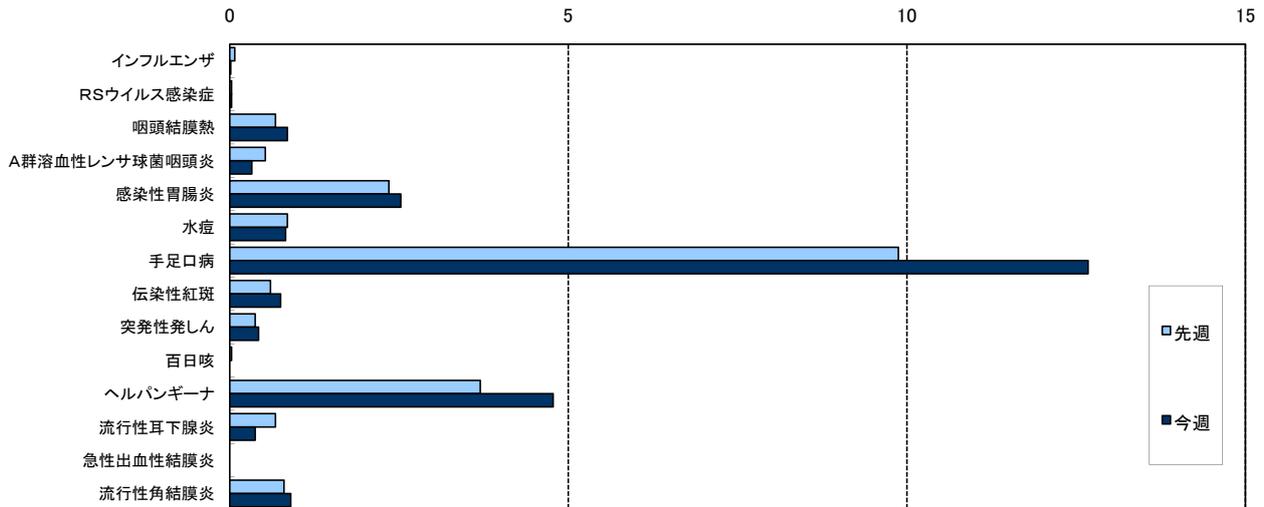
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

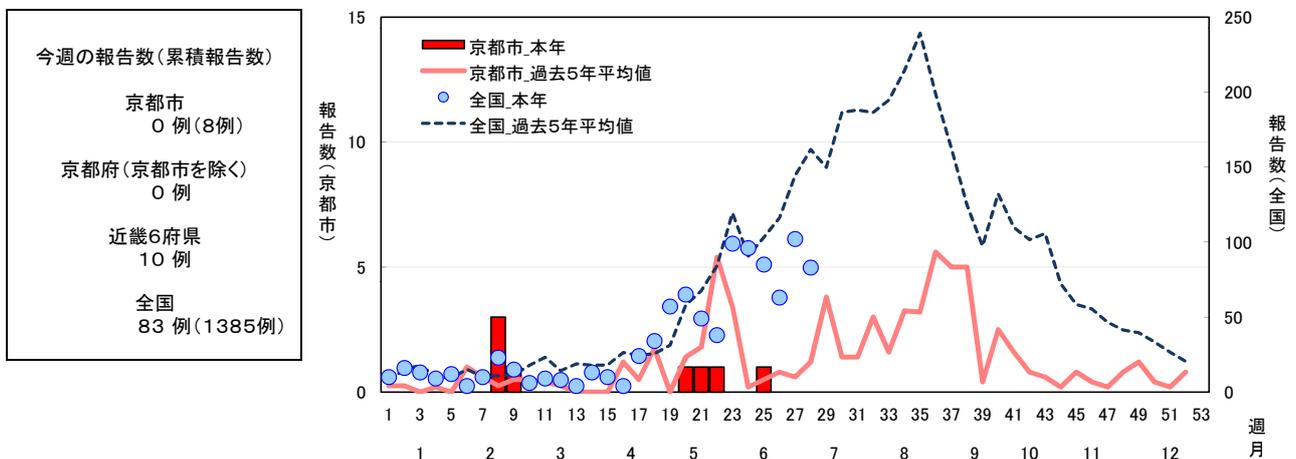
(注) 京都市のデータは、平成23年7月21日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第28週)と先週(第27週)の定点当たり報告数の比較

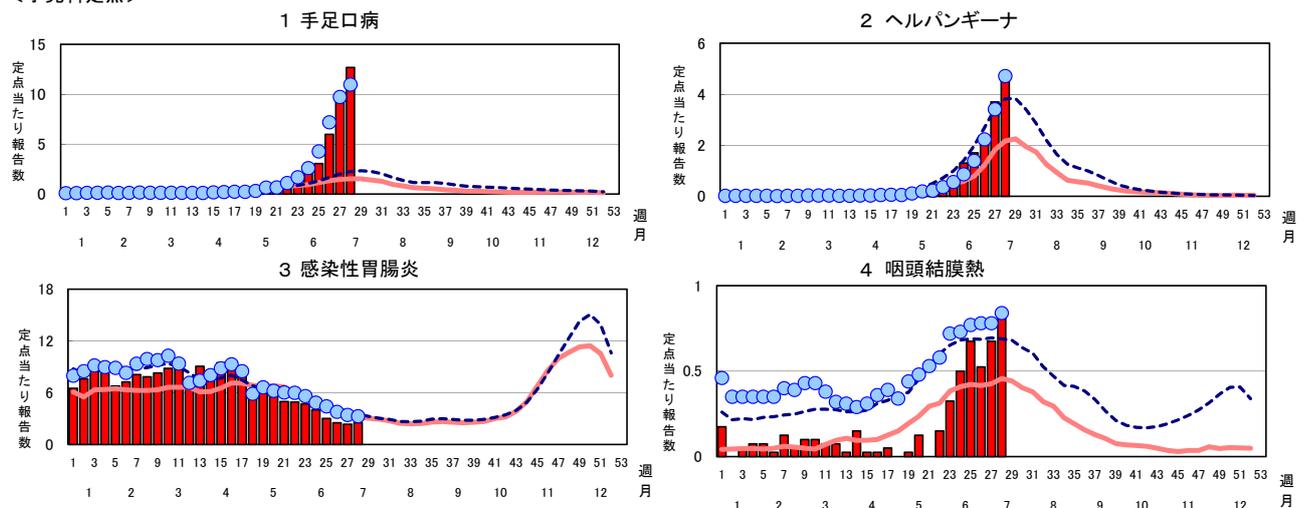


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

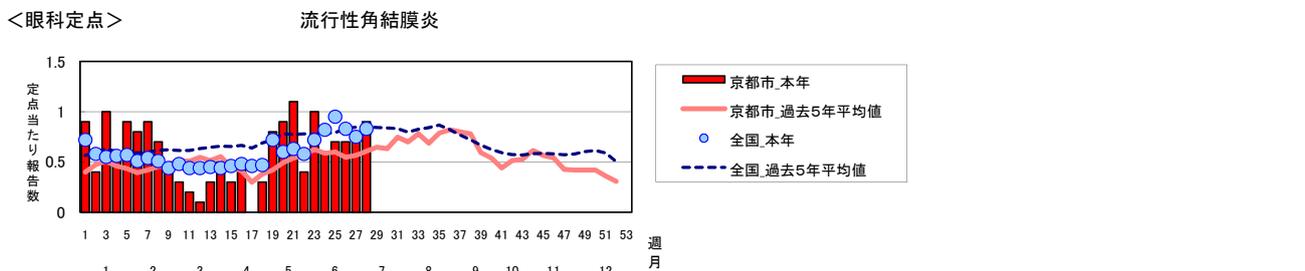


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第28週(7月11日～7月17日)トピックス: <手足口病>

手足口病の定点当たり報告数は、12.65(506例)で、本市において昭和57年に感染症発生動向調査が開始されて以降、最も多くなっています。例年、7月中旬から下旬にかけてピークとなりますので、動向にご注意ください。

年齢階級別では、1歳が138例(27.2%)と最も多く、以下、2歳 107例(21.1%)、3歳 72例(14.2%)となっており、1歳～3歳で62.5%を占めています。また、第24週より20歳以上の報告が続いており、第28週は10例(2.0%)となっています。

行政区別定点当たり報告数は、南区(37.00)が最も多く、以下、西京区(20.75)、伏見区(19.43)となっています。

手足口病の原因ウイルスは、コクサッキーウイルスA16型(CA16)とエンテロウイルス71型(EV71)が代表的です。昨年までは、これら2つのウイルスによって流行を繰り返してきましたが、本年は、昨年まで検出の少なかったコクサッキーウイルスA6型(CA6)が主流となっており、約50%を占めています(全国)。

京都市衛生環境研究所では、本年受け付けた手足口病患者の検体から検出されたウイルスは、全てCA6(5例)で、かぜ症候群患者(4例)、伝染性紅斑患者(1例)からも、CA6を検出しています。

また、本年の手足口病は、従来の典型例と比べ発疹が大きく、四肢末端に限らず広範囲に認められる症例が目立つとの情報があります。これがCA6に起因する症状であるかについては検討がなされているところです。(国立感染症研究所感染症情報センター感染症週報(IDWR)2011年第26週より)

○手足口病, CA6については、以下のホームページをご参照ください。

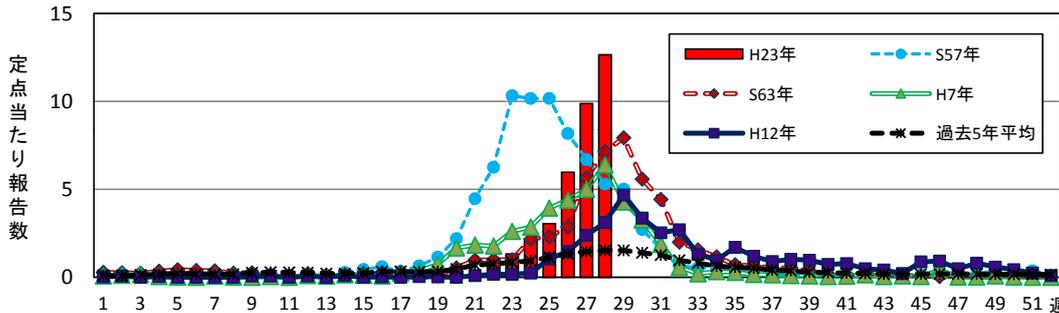
・国立感染症研究所感染症情報センター感染症週報(IDWR)2011年第26週

<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2011/idwr2011-26.pdf>

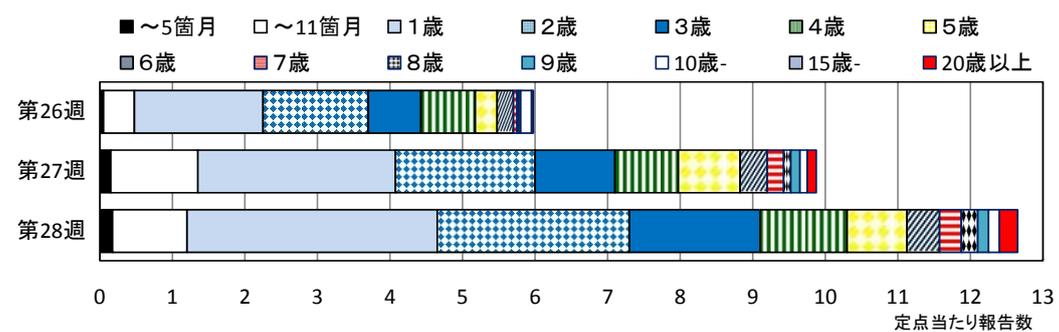
・国立感染症研究所感染症情報センター病原体検出情報(IASR)速報記事(ウイルス)ーエンテロウイルス

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/rapid/index-kv.html>

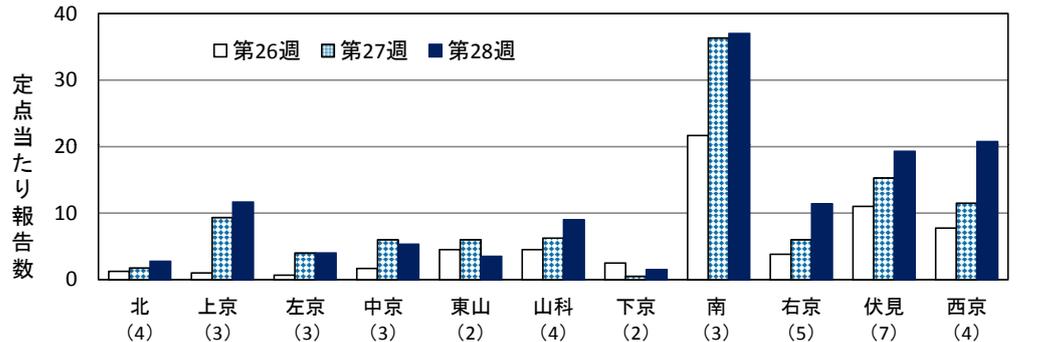
流行年及び過去5年平均の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



行政区別定点当たり報告数の推移



()内は、定点医療機関数